

令和2年10月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和2年10月分について、輸出額は「自動車」などが減少したものの、「重電機器」、「自動車の部分品」などが増加したことから、対前年同月比0.6%の増加となった。また、輸入額は「液化天然ガス」、「衣類及び同附属品」などが減少したことから、同13.4%の減少となった。

その結果、差引額は7,355億円（同9.0%の増加）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

○総額

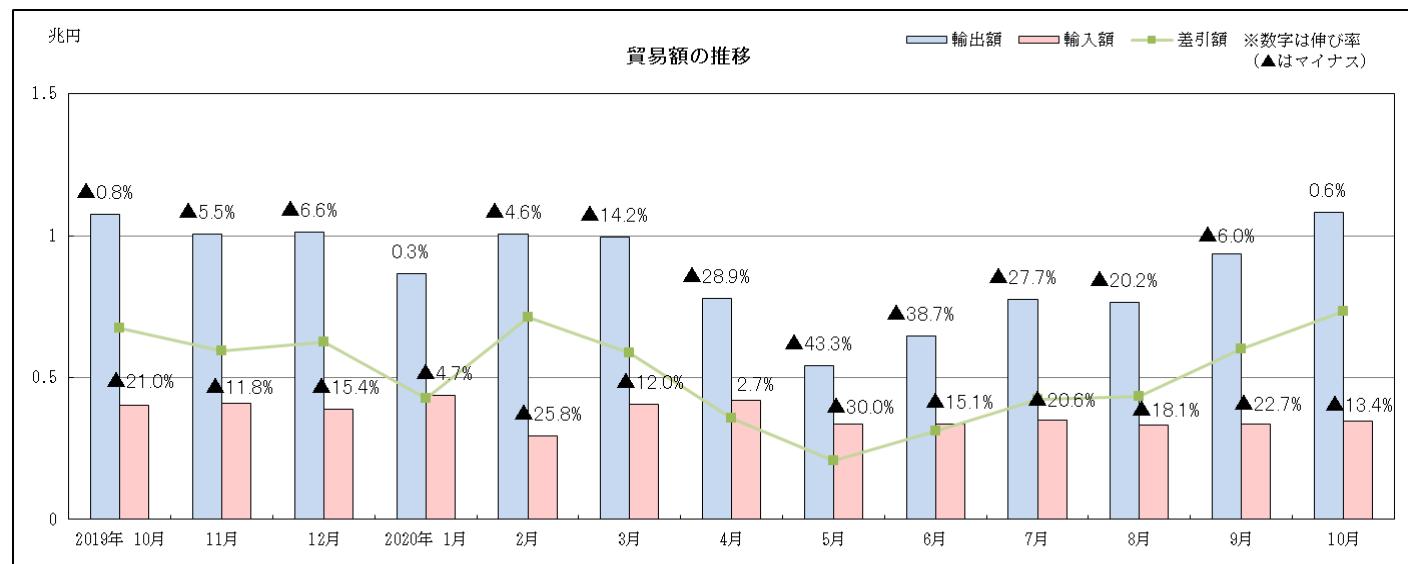
区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	1兆0,832億円	+0.6%	3,477億円	▲13.4%	7,355億円	+9.0%
	9カ月ぶりの増加		6カ月連続の減少		2カ月連続の増加	
管内（名港シェア）	1兆6,610億円 (65.2%)		6,599億円 (52.7%)		1兆0,011億円 (—)	
全国（名港シェア）	6兆5,661億円 (16.5%)		5兆6,932億円 (6.1%)		8,729億円 (—)	

注) 名古屋港における輸出額は、令和2年9月以降2カ月連続 全国港別第1位（空港を含む）

注) 名古屋港における差引額は、平成23年6月以降113カ月（9年5カ月）連続 全国港別第1位（空港を含む）

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出 増加	重電機器	★ 354億円	+50.4%	+1.1	4カ月連続の増加
	自動車の部分品	1,908億円	+6.3%	+1.1	2カ月連続の増加
輸入 減少	自動車	2,696億円	▲9.4%	▲2.6	9カ月連続の減少
	液化天然ガス	145億円	▲54.4%	▲4.3	4カ月連続の減少
輸入 減少	衣類及び同附属品	286億円	▲17.9%	▲1.6	15カ月連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）西部出張所をいいます。